

スロヴァキアの首都，ブラティスラヴァの変化と特色

Changes and characteristics of Bratislava, the capital of Slovakia

小林 浩二

キーワード：ブラティスラヴァ，トランスフォーメーション，高級住宅地区，所得格差の拡大

Keywords: Bratislava, Transformation, High-class residential district, Expanding income disparities

1. はじめに

1990年以降，東ヨーロッパは，体制転換に伴う市場経済への転換，その後のEU加盟によってまさに”トランスフォーメーション”と呼ぶにふさわしい大きな変化を遂げている。このトランスフォーメーション期における東ヨーロッパの特色は何だろうか。最も大きな特色のひとつは，大都市が著しく発展したことである¹⁾。もちろん，スロヴァキアの首都，ブラティスラヴァも例外ではない。この要因として，とくに，つぎの3点があげられるだろう²⁾。1) 1993年1月，スロヴァキアはチェコスロヴァキアから分離独立したが，ブラティスラヴァはスロヴァキアの首都になった。2) ブラティスラヴァはウィーンからわずか65 km離れているに過ぎない。すなわち，スロヴァキアとオーストリアとのヒト，モノ等の移動はすべてこのルートを通る。3) ブラティスラヴァが拡大EUの発展軸を形成し，gateway，すなわち，東ヨーロッパへの入り口になっている。ブラティスラヴァは，まさに東ヨーロッパの核になりつつあるし，ブラティスラヴァ，ウィーン，ジュールを結ぶ3国にまたがる3角地帯はヨーロッパにおける生産の「ゴールドトライアングル」とみなされるようになった。

このような状況により，ブラティスラヴァは大きく変化した。ブラティスラヴァの変化を象徴的に物語っているのが，都市の再開発事業が活発に実施されていることや都市の外延的拡大が急速に進展していることである。なかでも注目すべきことは，周辺部に形成されつつある高級住宅地である。高級住宅地の形成は，所得格差やそれに伴う地域格差の拡大を示す象徴であると同時に，EUが模索するコンパクトシティとは逆の方向性を示すからである。また，都市の外延的拡大が進むなかで，地域コミュニティが形成されないといった問題や交通渋滞などの交通問題も深刻化してきた。

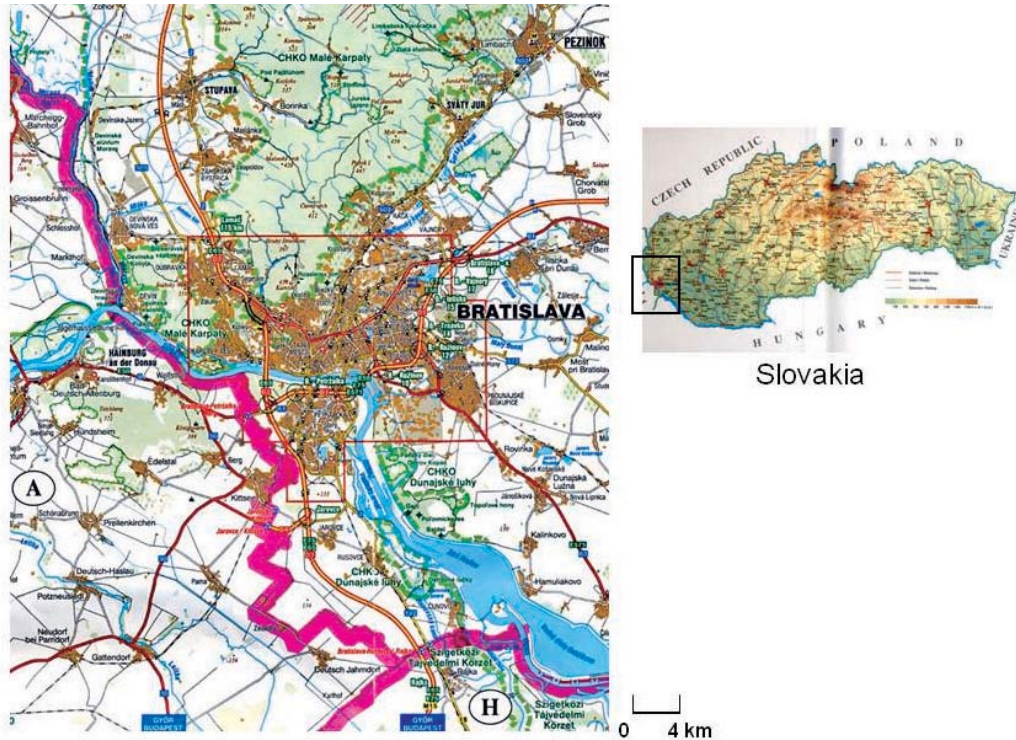
本稿では，ブラティスラヴァを対象にして1990年以降の都市の変化を捉えるとともに，新たに出現した高級住宅地の実態について明らかにしたい。併せて，ブラティスラヴァに顕在化した問題についても若干言及してみることにしたい。

2. ブラティスラヴァの概況

ブラティスラヴァは，小カルパート山脈の南麓に位置し，ドナウ川に面している。スロヴァキアの西端に位置しており，オーストリアとハンガリーに国境を接している（第1図）。

古くから交通の要地であり，紀元1世紀にはすでにローマ帝国の北の砦でもあった。5世紀にはスラブ人が居住している。10世紀以降はハンガリー王国の一部となり，16～18世紀にかけては，ハンガリー王国の首都となった。これは，オスマントルコの侵入を受け，ハンガリー王国の南部と中央部が占拠されたからである。1536年から1830年まで，ハンガリー王の戴冠式は，聖マルティン教会で行われている。

18世紀になると，貴族が邸宅を建設するとともに，繊維，日用品，化学，機械などの工業が盛んになった。それにつれて，ブラティスラヴァは発展を遂げ，市街地は東部へ，北部の山麓へと拡大していった。1918年，スロヴァキアはチェコスロヴァキア共和国に編入された。第2次世界大戦後，スロ



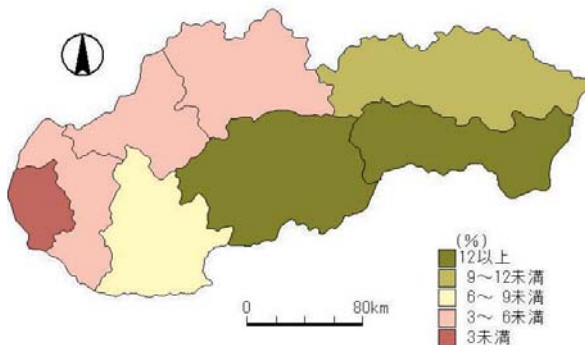
第1図 研究対象地域

ヴァキアは社会主義ブロックに組み入れられ、ブラティスラヴァは、社会主義に基づく都市建設が行われることになった。石油化学、ゴム、機械電気、食品加工、建設業などを中心とした工業化が推し進められる一方で、周辺部には住宅地（住宅集落）がぎっぎと建設された。

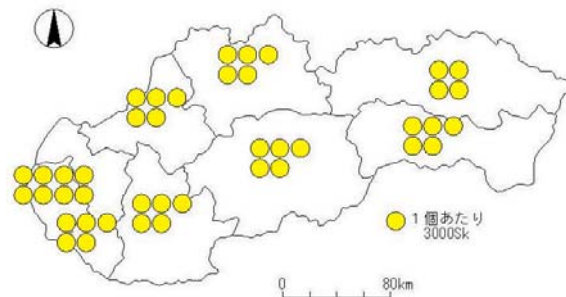
1990年の体制転換を契機に市場経済が導入されたが、市場経済の導入は、ブラティスラヴァにも大きな影響を及ぼさずにはおかなかった。民有化への転換がはかられたのである。基本的には、つぎのような要因によるものだった。1) 地代が再び重要になったことならびに空間をめぐる競争が生じたこと。2) 地域（都市）政策のイニシアティブが中央政府から地方政府に移行したこと。3) 政治的基準よりも経済的基準によって空間的分布・配置が行われるようになったこと³⁾。

1993年1月にチェコスロヴァキアはチェコ共和国とスロヴァキア共和国に分離独立し、ブラティスラヴァはスロヴァキアの首都になった。ブラティスラヴァ面積は367.6 km²、人口は42.7万人（2007年）で、人口密度は1,162人/km²である⁴⁾。

既述したように、1990年以降のブラティスラヴァの発展は著しいが、ブラティスラヴァはスロヴァキアのかなかでどのような地位にあるのだろうか。第2図は、2007年におけるスロヴァキアの失業率を



資料：Statistical Yearbook of the Slovak Republicより作成。
第2図 スロヴァキアの失業率（2007年）



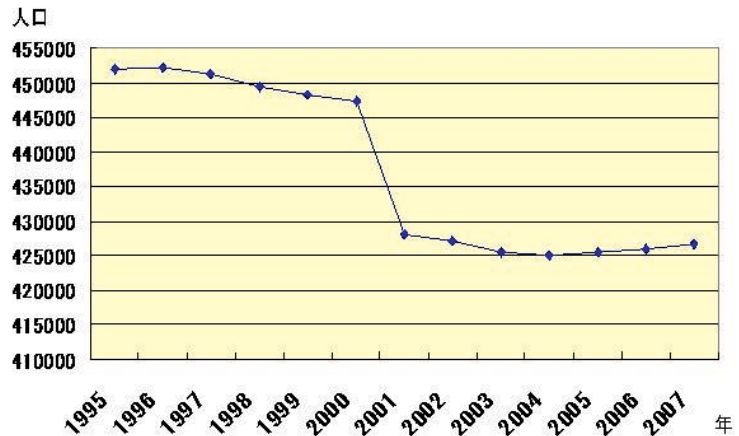
資料：Statistical Yearbook of the Slovak Republicより作成。
第3図 スロヴァキアにおける雇用の平均月収（2006年）

リージョン別に示したものである⁵⁾。失業率の最も低いのがブラティスラヴァ・リージョンで2.0%、最も高いのが Banska Bystrica リージョンの13.9%、ブラティスラヴァの平均が7.9%となっている。ブラティスラヴァ・リージョンの失業率がきわめて低いこと、スロヴァキアの西部で失業率が低く東部へ向かうにつれて高くなること、いわゆる西低東高となっていることがわかる。なお、ブラティスラヴァ・リージョンは、首都ブラティスラヴァ（5つのディストリクト）のほかに3つのディストリクトを含んでいる⁶⁾。

一方、賃金はどうか（第3図）。2006年における雇用者の平均月収を同じくリージョン別にみると、平均賃金の最も高い地区がブラティスラヴァ・リージョンで24,860クローネ（約9.9万円）、最も低いのがプレショフ・リージョンで14,087クローネ（約5.6万円）、スロヴァキアの平均賃金は18,761クローネ（約7.5万円）となっている。スロヴァキアの平均賃金を100とした指数でみると、ブラティスラヴァ・リージョン132.5、プレショフ・リージョン75.1である。やはり、西高東低となっている。なお、1998年の状況を見ると、平均賃金が最も高い地区はブラティスラヴァ・リージョン、最も低い地区はプレショフ・リージョンと同じで、それぞれの指数は127.5、81.6であった。スロヴァキアの地域格差は拡大傾向を示している。

3. ブラティスラヴァの変化

第4図は、1995年以降のブラティスラヴァの人口変化をみたものである。ブラティスラヴァの人口は、1995年の45.2万人から2004年の42.5万人へと減少したが、その後増加に転じ、2007年には42.7万になった。2004年までの減少は、出生率の低下に加えてブラティスラヴァからの転出によるものであり、2005年以降の漸増は、ブラティスラヴァへの転入人口が増加したことによる。後者の理由として、経済の好転、特に受け皿としての住宅建設が増加したことがあげられる。



資料：Statistical Yearbook of the Capital of Slovak Republic Bratislavaより作成。

第4図 ブラティスラヴァの人口

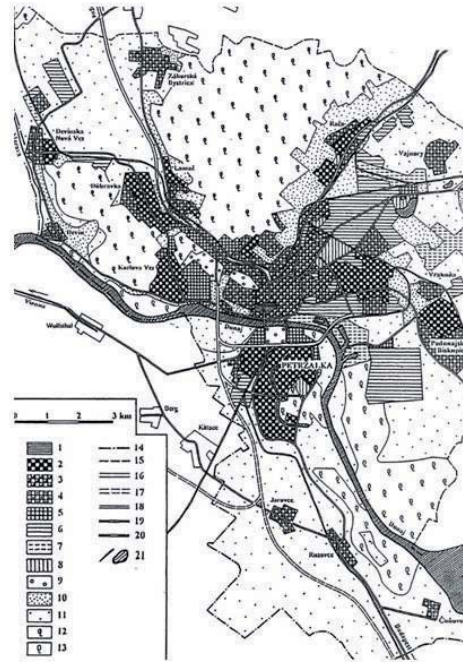
第1表 ブラティスラヴァの産業別就業人口

産業分類	2000年			2005年		
	就業人口	割合 (%)	割合 (%)	就業人口	割合 (%)	割合 (%)
農業・狩猟・林業	1,295	0.4%	0.4%	944	0.3%	0.3%
鉱業・採石業	549	0.2		397	0.1	
製造業	44,634	13.1	25.6	36,465	11.6	21.3
電気・ガス・水供給	25,108	7.3		17,354	5.5	
建設業	16,958	5.0		12,782	4.1	
小売卸売り・自動車及び日用品の修理	24,449	7.1		36,416	11.6	
ホテル・レストラン	5,028	1.5		5,273	1.7	
輸送・貯蔵・通信	77,764	22.8		58,246	18.5	
金融仲介業	31,590	9.2	74.0	29,481	9.3	78.4
不動産・ビジネス業	24,354	7.1		34,173	10.8	
公務・防衛・社会保障	33,136	9.7		34,386	10.9	
教育	23,485	6.9		20,248	6.4	
保健・社会福祉関連事業	16,268	4.8		14,440	4.6	
その他の社会的・個人的サービス	16,560	4.9		14,505	4.6	
計	341,191	100.0	100.0	315,110	100.0	100.0

資料：Statistical Yearbook of the Capital of the Slovak Republic Bratislava。

こうしたなかで、産業構造はどのような変化を遂げているのだろうか。産業別就業人口の変化をみると（第1表）、2000年の就業者数は34.1万人で、産業部門別比率は、第1次産業0.4%、第2次産業25.6%、第3次産業74.0%だった。2005年になると、それぞれ、31.5万人、0.3%、21.3%、78.4%となり、就業者数が2.6万人減少するなかで、第2次産業就業者数の割合の減少、それに代わる第3次産業就業者数の割合の増加が顕著になった。と

第5図 プラテスラヴァ
の都市構造
(1991年)



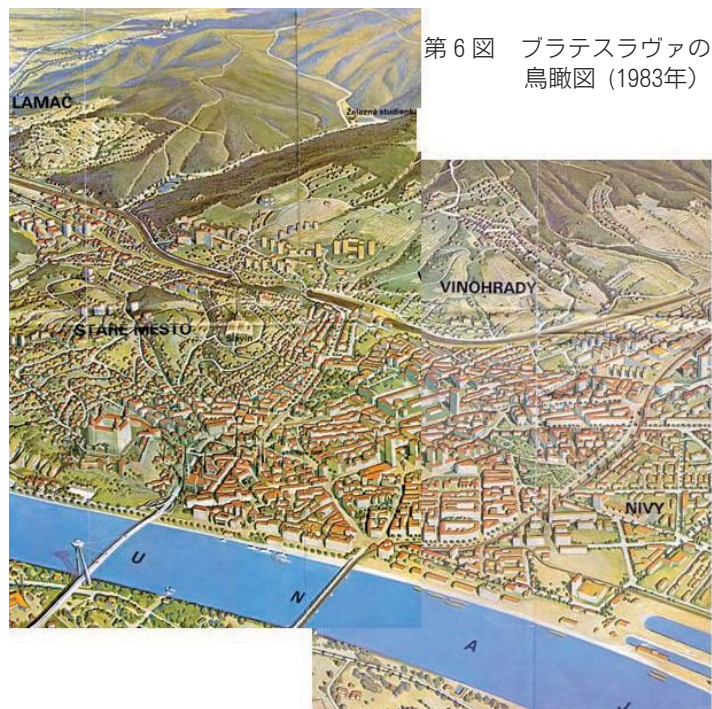
資料: Korec, P and
Buček, J. 2004.

1 歴史的な中心地 2 サービス施設を有する高層の住宅団地(住宅集落) 3 高層の住宅団地(住宅集落) 4 家族住宅 5 サービス施設 6 生産活動(工場) 7 輸送 8 スポーツ・レクリエーション 9 公共の庭園・公園・墓地 10 ブドウ畑・菜園地 11 農地 12 林地 13 ドナウ川の氾濫原(林地) 14 国境 15 プラテスラヴァの市境 16 高速道路 17 高速道路(建設中) 18 道路 19 鉄道 20 鉄道(建設中) 21 河川・湖

りわけ、成長が著しい部門は小売卸売り・自動車及び日用品の修理，不動産・ビジネス業，公務・防衛・社会保障で，これらは，割合だけでなく絶対数でも増加している。就業者数の減少は，経営体の合理化が進展したことを物語っている。

ブラティスラヴァは構造的にみても著しく変化している。第5図は，1991年時点のブラティスラの都市構造を示したものである。この時期のブラティスラヴァの特色は，つぎの5点にまとめることができるだろう。

1) 都市の中心部は，機能的，景観的にみて十分に発展していなかった。すなわち，商業及びサービス業の発展が十分でなく，十分改修の行われていない建物が存在していた。2) 密度の比較的低いモノトーンの住宅コンプレックス（以下，住宅集落）が都市の周辺部に建設されていた。住宅集落に居住する人は，極めて限定されたサービスの提供を余儀なくされた。3) 大きな面積を占める工業地区が都市の中心部に近いところに立地していた。4) 市街地がドナウ川を挟んで南北に分断されていた。また，北部では，市街地が山地の影響を受け，くさび形に発展していた。5) 都市周辺部を中心に農地及び森林地が広範に分布していた（全面積の約40％は農地，約20％は森林であった）。第6図は，1983年の当時のブラティスラヴァを示した鳥瞰図である。ドナウ川に面



第6図 プラテスラヴァの
鳥瞰図 (1983年)

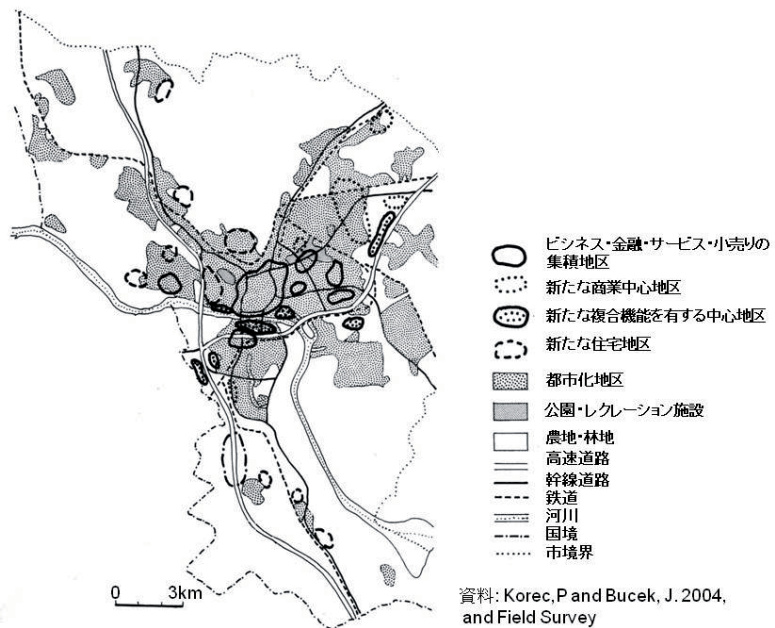
資料: City map of Bratislava

して発達した中心部の都市景観，周辺部に広がる古い集落や住宅集落，そして，周辺部の農地（ぶどう栽培）が特色ある景観となっている。

それでは，1991年から20年近くが経過した今日はどうのような状況になっているだろうか。コレツ Korecは，1990年以降のブラティスラヴァの変化の特色をつぎの6点にまとめている。1）都市の中心部の商業化ならびに土地利用の集約化が進行したこと。2）都市の中心部に立地していた工業地区が活性化したこと。3）住宅集落内にさまざまなビジネス活動が展開するようになったこと。4）高級住宅が建設されたこと。5）ハイパーマーケット（大型のスーパーマーケット），スーパーマーケット，大型の卸売り・小売専門店，大型のショッピングセンター・サービスセンターが建設されたこと。6）都市の幹線道路沿いの土地が集約的に利用されるようになったこと⁷⁾。こうしたコレツの指摘ならびに今日の状況を加味すると，ブラティスラヴァの発展の特色は，つぎの5点に要約することができるだろう。1）ビジネス，金融，小売・サービス業の中心地の形成，2）商業中心地の形成，3）小売・卸売り専門店，レジャー施設，公共施設，ホテル，住宅などの複合機能を持つ中心地の形成，4）新たな住宅地の形成，5）交通網の整備（第7図）。

まず，第1のビジネス，金融，小売・サービス業の中心地の形成であるが，1990年以降，主にブラティスラヴァの中心部，旧市街地を対象に都市再開発事業が実施されるなかで建物の更新・改修が急速に進むとともに，ビジネス，金融，サービス，小売り・卸売りなどの第3次産業施設の進出が顕著になった（写真1，2，3）。これは，ブラティスラヴァにはこれらの機能が十分でなく，しかも建物の更新・改修が十分行われてこなかったことによる。ビジネス，金融，サービス，小売り・卸売りなどの集積により，これらの地区では従来の単調な都市景観は一変し，驚くほど多彩で魅力的になった。こうした変化は，旧市街地に隣接・近接したルジノフRužinov，ペトルジャルカPetržarkaなどでも生じている。

第2の商業中心地の形成とは，小売り・サービスの専門店，スーパーマーケット，ハイパーマーケット（大型のスーパーマーケット），デパート等の集積する商業中心地の建設を意味する。商業中心地の建設は，主にブラティスラヴァの周辺部で行われている。自家用車を利用した顧客のために，広大な面積の駐車場を有していること，それゆえに主要道路沿いに立地していることが特徴である。たとえば，ノヴェ・メストNove Mestoにある面積3.8万㎡を有するポラス・シティー・センター Polus City Centerには，フランス資本のデパート Carrefourをはじめとしてさまざまな業種の小売店，レストランが出店しているほか，映画館が併設されている（写真4，5）。ポラス・シティー・センターは，広大な駐車場を有しており，北西にのびる幹線道路，ヴァイノルスカVajnorská通りに立地している。こうした商業中心地の建設の背景にはモータリゼーションの進展があるこ



第7図 ブラティスラヴァの発展



写真1 フラヴネー広場 (Hlavné nám.) (2007年)



写真2 ミハルスカー通り (Mchalská) (2007年)



写真3 デパート・テスコ (TESCO) (2003年)



写真4 ポラス・シティー・センター (1) (2007年)



写真5 ポラス・シティー・センター (2) (2007年)



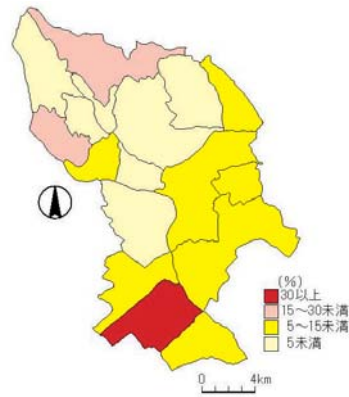
写真6 ユーロヴェアプロジェクト(1)
(Eurovea Project) (2007年)

とはいうまでもない。

第3の小売・卸売り専門店、レジャー施設、公共施設、ホテル、住宅などの複合機能を持つ中心地の形成は、こうしたさまざまな機能を持った中心地の建設である。複合機能を持つ中心地の建設は、ブラティスラヴァの中心地に近いドナウ川沿いの地区（スタレー・メストStaré Mesto, ルジノフ, ペトルジャルカ）、オーストリアとの国境地区（ペトルジャルカ）、北部のツァーホルスカー・ビストリツァの主要道路沿い等で行われている。若干の事例をあげてみよう。ユーロヴェアEuroveaと呼ばれるプロジェクトは、スタレー・メストのドナウ川左岸で2004年から工事が開始された。面積は20万㎡、ここには、すでに国立劇場が建設されたほか、オフィス、ホテル、カジノ、各種の商業施設、アパート・マンション（200戸）が建設されつつある（写真6、7）。また、リヴァーパークRiver parkプロジェクトは、同じくドナウ川左岸を対象に個年から工事が始まった。延べ面積は14万㎡、オフィ



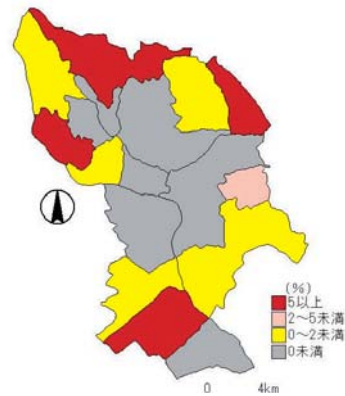
写真7 ユーロヴェアプロジェクト(2)
(Eurovea Project)(2007年)



第8図 ブラティスラヴァにおける住居の増加率 (2001-2005年)

ス, レストラン, 小売専門店のほか, ホテル, アパート・マンション, 駐車場等が建設されつつある。2007年からはアパート・マンションが売り出されている。

第4の新たな住宅地の形成であるが, 北部のカルロヴァ・ヴェス Karlova Ves, ラマチ Lamac, ツァーホルスカー・ピストリツァ Záhorská Bystrica, 南部のヤロヴツェ Jarovce, ルソヴツェ Rusovceなどブラティスラヴァ周辺に新たな住宅地が建設されつつある。第8図は, 2001年~2005



第9図 ブラティスラヴァの人口増加率 (2002-2005年)

年における住居の増加率を地区別にみたものであるが, ルソヴツェ Rusovce (37.6%), デヴィン Devin (19.5%), ツァーホルスカー・ピストリツァ (17.4%) と周辺部で高いことがわかる。こうした住宅建設の状況は, 人口数の変化 (2002~2005年) にも反映されており, その伸びはツァーホルスカー・ピストリツァ, ヴァイノリー Vajnory, デヴィン, ルソヴツェなど周辺部で高い。その一方で, スタレー・メスト, ルジノフ, ペロルジョルカなど, 中心部では人口が減少しているのが注目される (第9図)。なお, 新たな住宅地の形成については次章で検討する。

第5の交通網の整備とは, 鉄道網及び幹線道路の整備, 橋梁の建設, バイパスの建設, 高速道路の建設 (ブラティスラヴァ・ウイーン) などである。すでに, ドナウ川に挟むラフランコニ Lafranconi 橋 (1992年完成) アポロ Apollo 橋 (2005年完成) の建設のほか, 市北西部のバイパスの建設, 周辺へ伸びる幹線道路の改修・拡幅が行われた。路面電車網やバス路線網の拡充もはかられてきた。これらの整備・拡充によって, ブラティスラヴァ市内ならびに市内と周辺地域を結ぶ交通アクセスは大幅に改善された。間もなく, ブラティスラヴァとウイーンを結ぶ高速道路が完成する予定になっている。

しかしその一方で, 道路網の改善・拡充は, モータリゼーションをいっそう促進させ, 交通渋滞や交通騒音, 交通事故を深刻化させている。今後, どのような交通政策を進めていくのか, 市当局は待ったなしの対応を迫られている。

4. 新たな住宅地の形成

続いて, 新たな住宅地について具体的に検討することにしよう。既述したように, 新たな住宅地の形成はブラティスラヴァ発展のひとつの象徴である。これは, 高度経済成長期における西ヨーロッパや日本の都市化現象といえるが, その反面, 所得格差の拡大を象徴的に示しているという点で, また, EUが模索しているコンパクトシティとは逆の方向をたどっているという点できわめて注目される。

ここでは、ツァーホルスカー・ビストリツァ、ルソヴツェ、リムバハに建設されつつある3つの住宅地区を具体的に検討してみよう。ツァーホルスカー・ビストリツァ、ルソヴツェは首都ブラティスラヴァに含まれているが、リムバハは行政区（ディストリクト）ペジノクに属している。

4-1. ツァーホルスカー・ビストリツァ (第10図)

ツァーホルスカー・ビストリツァは、ブラティスラヴァの中心から北へ13km、小カルパチア山地西麓に位置する。2005年の人口は2,492人である⁸⁾。1996年、旧集落の南東隣に新たな住宅地の開発が始まった。民間の不動産会社による開発で、面積約60ha、2007年時点で約270戸の住宅が建てられている。この地が住宅地区に選定されたのは、つぎの理由によるものだった。

1) すでに社会主義時代からこの地をヴィラ（高級住宅地）にする計画が建てられていたこと。2) ブラティスラヴァの中心から車で20分程度とアクセスが良好であること。3) 環境汚染（特に大気汚染）が少ないこと。ブラティスラヴァは西風が卓越し、それゆえ、この地は大気汚染源の影響をほとんど受けないこと（主な工場は、ブラティスラヴァ東部に立地している）。4) カルパチア山地に位置し、いわゆる *wohnen in Grünen*（緑のなかに居住）できる環境にあること、また、見晴らしも良好なこと。

新たな住宅地は、旧集落の南東部、北西から西向きに緩斜面（海拔高度250~200m）に建設されている。1区画面積は、200㎡~3,000㎡、平均区画面積は約1,000㎡、大部分が戸建て住宅からなる高級住宅地区である（第11図）。住宅はきわめて多様であること、安全を確保するために屋敷の周りを高塀で囲んでいる住宅の多いことが特色となっている。門扉を構え、出入りを厳しく監視している地区もある（写真8, 9, 10）。

ところで、この地の住宅に居住するにはどの程度のお金がかかるのだろうか。聞き取り調査によると⁹⁾、地価は平均5,000クローネ/㎡であるから、敷地面積1,000㎡とすると敷地の購入価格は500万クローネ、また、住宅の建設費用は平均1,500万クローネであるから、合わせて2,000万クローネとなる。



資料: Google Earth.

第10図 ツァーホルスカー・ビストリツァ



資料: Residential Map(1:2,000)

第11図 ツァーホルスカー・ビストリツァの新たな住宅地



写真8 ツァホルスカー・ビストリツァの新たな住宅地(1) (2007年)



写真9 ツァホルスカー・ビストリツァの新たな住宅地(2) (2007年9月)



写真10 ツァホルスカー・ビストリツァの新たな住宅地(3) (2007年)



写真11 ツァホルスカー・ビストリツァの市長K氏(中央) (2007年)

金持ちでなければ購入できない価格である。もちろん、住宅購入者は富裕層であり、ブラティスラヴァから転居してきた人が80%を占めている。転居前の住居と併せて、2つの住宅を所有している人も少なくない。住宅購入者は、銀行や外資系企業に勤務する人、レストラン経営者などサービス関係の自営業者が多い。多くの人が、職場をブラティスラヴァに持ち、自家用車で通勤している。自家用車2台所有している世帯も少なくない。

ツァホルスカー・ビストリツァには、この住宅地のほかに、新たに2つの住宅地区の建設が予定されている。将来の住宅地区の建設について、ツァホルスカー・ビストリツァの市長K氏は、「旧集落の北側と南側の2つの地区で新たな住宅地の建設がする計画が進行中です。2010年には、ツァホルスカー・ビストリツァの人口が5,000人を越えるのは確実でしょう。人口の増加に対応したインフラの整備が課題です。」と語っていた(写真11)。

S世帯の事例

続いて、この住宅地に居住するS世帯を紹介しよう(写真12)。S世帯は、世帯主(45歳)、その妻(42歳)、長男(21歳)、次男(16歳)の4人から構成されている。世帯主は建設関係の自営業、妻はコンサルタント会社に勤務している。長男は大学生、次男は普通中等学校の学生である。S世帯は、2002年にこの地の住宅を購入した。S世帯は、以前から静かな環境にある戸建て住宅を購入することを望んでいたが、経



写真12 S世帯の住宅(2007年)

済的に可能になったこと、加えて、それまで居住していたブラティスラヴァの中心部、ノヴェ・メストの自動車騒音が深刻化したことが住宅購入の理由である。購入価格は、1,700万クローネ（地価500万クローネ、住宅1,200万クローネ）（約6,800万円）であった。S世帯は、この地の戸建て住宅とそれ以前に住んでいたノヴェ・メストの住宅（アパート）2つを所有しており、それらを適宜利用している。息子達は、ノヴェ・メストのアパートに居住することが多い。

世帯主夫婦ともブラティスラヴァ中心部の職場に、自家用車で通勤している。職場までの通勤時間は20分ほどである。食料品などの日用品の購入は、ツァーホルスカー・ビストリツァの小売店で、買廻り品はブラティスラヴァの大きな小売専門店やショッピングセンターで行っている。

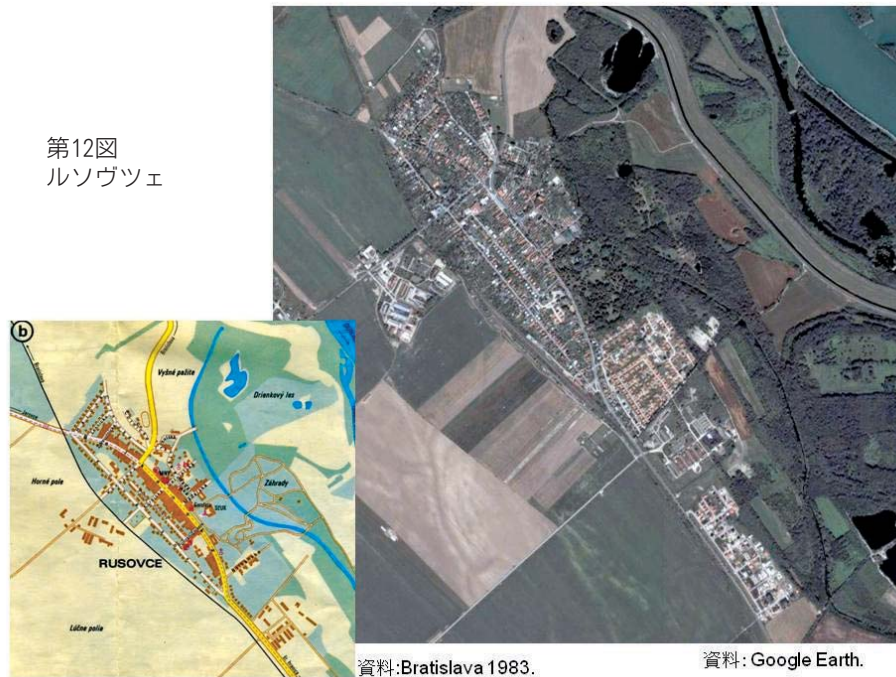
4-2. ルソヴツェ（第12図）

ルソヴツェは、ブラティスラヴァの南10kmに位置している。2005年の人口は、2,163人である¹⁰⁾。ハンガリーのジェールGyőrへ至る道路沿いに広がる街村である。17世紀に建設された城に特色づけられる。

1990年以前、ルソヴツェは農業集落であった。すなわち、農業生産協同組合（ヤロヴツェJarovce, チュノヴォČunovoを含む）が存在し、主に果樹（主にリンゴ）栽培と乳牛と豚を中心とした家畜飼育が行われていた。しかし体制転換後、ルソヴツェはその機能を大きく変化させた。ブラティスラヴァの住宅地としての機能が高まったのである。現在、集落の南端から南東に走る道路に沿って戸建て住宅が建設されつつある（写真13, 14）。今後数年間で、約650戸の戸建て住宅が建設される予定である。

こうした状況を反映して、人口数は急増している。2000年には1,780人だったが、2005年には2,163人となり、この5

第12図
ルソヴツェ



資料: Bratislava 1983.

資料: Google Earth.



写真13 ルソヴツェに建設された新たな住宅地（2007年）



写真14 ルソヴツェの新たな住宅（2007年）



写真15 ルソヴツェの中心地（2007年）



写真16 M氏と彼の住宅（2007年）

年間で21.5%増加した。また、就業構造も大きく変化し、2001年の統計によると、ルソヴツェの就業者数は1,029人（全人口の52.4%）であり、うち産業別就業者数の割合をみると、第1次産業10.5%、第2次産業15.3%、第3次産業74.0%となっており、第3次産業就業者の比率が急増していることが推測できる。とりわけ、ブラティスラヴァならびに国境を越えてウイーン（オーストリア）へ通勤する人が急増している。また、集落の中心部では、レストラン、小売店などの商業施設が増加してきた（写真15）。こうした急激な変化につれて、自動車騒音や交通事故の増加、ゴミ問題、治安の悪化（自動車の盗難など）が目立ってきた。

ルソヴツェは、ドナウ川沿いに位置しており、沿岸には森林が広がっている。前述したように古い城があり、その改修・利用計画も進行している。こうしたことから、ルソヴツェは、今後ベッドタウンとしての機能とともに、レクリエーションの機能を高めていこう。ルソヴツェの市長A氏は、「ルソヴツェの10年後の人口は、3,500人～4,000人になると推定しています。それに対応した整備を進めています。今後、レクリエーションの機能はより重要になるでしょう。ブラティスラヴァへの自転車道の整備とゴルフ場の建設が私の重点施策です」と説明してくれた。

M世帯の事例

続いて、ルソヴツェの新たな住宅地を購入したM世帯をみよう（写真16）。M世帯は、世帯主（33歳）、その妻（32歳）、長男（7歳）、次男（3歳）、世帯主の父（55歳）母（50歳）の6人家族である。世帯主は、ブラティスラヴァ市内で不動産会社を経営しており、妻も世帯主の経営する会社に勤務している。世帯主の父はすでに退職、母はブラティスラヴァ市内にある食品関係の工場で働いている。長男は初等学校、次男は幼稚園に通っている。M世帯は車1台を所有、その車で世帯主夫妻は通勤している。

M世帯は、2002年、ペトルジャルカからこの地に転居してきた。この理由は、つぎの3点、すなわち、長男が生まれて住居が狭くなったこと、緑の豊富な居住環境を求めていたこと、この地が世帯主夫妻の勤務地から車で16分とアクセスが良好だったことである。

この地に転居してきた長所と短所について、M氏はつぎのように語ってくれた。「とにかく環境がよくなりました。家の周りは静かですし、ドナウ川沿いは散歩に絶好です。また、私の会社にも車で20分足らずで行けます。ただし、近隣の人とのつきあいが無いのが寂しですし、不安ですね。」

4-3. リムバハ（第13図）

リムバハは、小カルパート山脈山麓の南東向き緩斜面に立地している。ブラティスラヴァから北東方向18kmのところにある。2007年の人口は、1,337人である¹¹⁾。

リムバハは、第2次世界大戦終了時までドイツ人の居住する集落だった。第2次世界大戦後、スロヴァキア人が入植、農業改革が断行された。1949年以降になると、農業生産組合による農業生産（主にブドウ栽培ならびにワインの醸造）が本格的に行われるようになった。1960年代以降、それまでの

集落に隣接して住宅集落の建設が行われた。

体制転換後の1996年，新たな住宅地の建設が始まった。新たな住宅地は，旧集落に隣接した南東部

を中心に建設されつつある。戸建て住宅が中心である（写真17，18，19）。2007年までに建設された戸建て住宅は150戸を越えており，計画中含めると250戸に達する。人口数の変化をみると，1991年が904人だったから，過去16年間に433人（47.9%）増加したことになる。新たに転居してきた住民の大部分は，ブラティスラヴァに通勤しており，若干であるが，ベジノクPezinokに通勤している。彼らのほとんどは，車で通勤している。この地に住宅を購入したにもかかわらず，常時居住していない人も10%ほど存在する。彼らは，住宅をセカンドハウスとして利用している。

リムバハでは，ここ数年来インフラの整備が住宅地の急増に追いつかないといった問題が顕在化してきた。具体的には，道路や上下水道の整備が十分でないといった問題，水需要の急激な増加により，水不足が深刻化しているといった問題である。また，自動車が急増したことから，通勤時間帯を中心に渋滞が日常的に生起するようになっている。交通事故も増加してきた。さらに，休耕地が増加しており，この地区の特徴であった伝統的



資料: Google Earth.

資料: Topographic map (1:25,000).

第13図 リムバハ



写真17 リムバハの集落景観 (2007年)



写真18 リムバハ の新たな住宅地 (1) (2007年)



写真19 リムバハ の新たな住宅地 (2) (2007年)

なブドウ景観の破壊が危惧されるようになった。

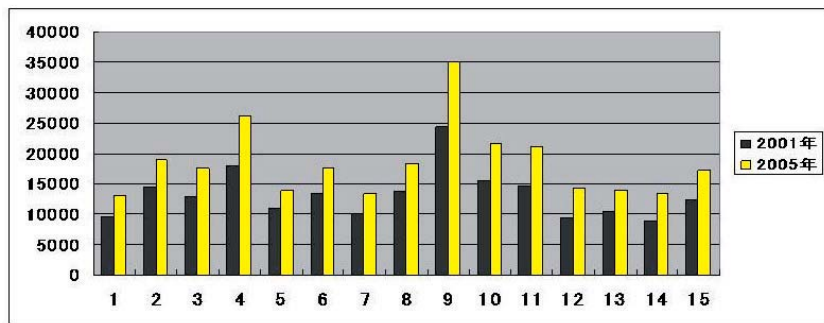
5. おわりにーブラティスラヴァの光と影

本稿では、1990年以降のブラティスラヴァの変化について検討してきた。ブラティスラヴァの特色として、つぎの5点を指摘することができた。1) ビジネス、金融、小売・サービス業の中心地の形成、2) 商業中心地の形成、3) 小売・卸売り専門店、レジャー施設、公共施設、ホテル、住宅などの複合機能を持つ中心地の形成、4) 新たな住宅地の形成、5) 交通網の整備。また、4) の新たな住宅地の形成に焦点を当てて検討したが、これらの住宅地の形成は、都市の外延的拡大を示すと同時に、富裕層の形成を物語るものであった。

このように、ブラティスラヴァは大きく変化しつつあるが、それに伴ってさまざまな問題が顕在化してきた。最後に、つぎの2点を指摘しておこう。第1は、地域のコミュニティーが形成されないといった問題、盗難・盗みなどの治安の悪化といった問題が顕在化してきたことである。既述した住宅の周りを強固なフェンスで囲んだり、見張り用の門扉を設置したりしているのは、こうした状況を象徴的に示している。また、その背景に貧富や地域格差の拡大があることに注意を向けなければならないだろう。第14図は、2001年と2005年におけるスロヴァキアの平均賃金を産業部門別に示したものである。この4年間に各部門とも賃金は大幅に上昇しているが、産業部門間の格差は依然として大きい。その結果、たとえば、ブラティスラヴァでは家賃が高騰しており、住宅を出て行かざるを得ない、優秀な人材が賃金のよい企業へ流れていってしまう等の問題が生じている。

第2は、交通渋滞、交通騒音、交通事故などの交通問題が深刻化してきたことである。ブラティスラヴァ市内と周辺部間の自動車流動が急増しているためである。この要因として、ブラティスラヴァ周辺部における住宅の建設ラッシュに加えて、社会主義時代に周辺部に住宅集落が多く建設されたことがあげられる。また、ブラティスラヴァの市街地がドナウ川によって南北に分断されていることによる。

EUでは、コンパクトシティを構築することが重要な都市政策のひとつとなっており、都市の外延的拡大を抑える政策がとられている。その意味でも、ブラティスラヴァの外延的拡大がどうなるか、注視していく必要があるだろう。



資料: Statistical Yearbook of the Capital of the Slovak Republic Bratislava.

- 1 農業、狩猟、林業
- 2 鉱業、採石業
- 3 製造業
- 4 電気、ガス、水供給
- 5 建設業Construction
- 6 小売・卸売業、自動車・家庭用品の修理
- 7 ホテル、レストラン
- 8 輸送、郵便、通信
- 9 金融
- 10 不動産、ビジネス、研究
- 11 公務、防衛・安全
- 12 教育
- 13 保健、社会福祉
- 14 社会的・個人的サービス
- 15 平均

第14図 スロヴァキアの雇用者の平均賃金

注・文献

- 1) 小林浩二2005. 『中央ヨーロッパの再生と展望』古今書院.
- 小林浩二2008. 東欧における大都市の変化と特色. 歴史と地理 第613号 地理の研究 (178) : 30-38.
- 2) パヴォル・コレツ (小林浩二訳) 2008. スロヴァキアの首都ブラティスラヴァの変化. 小林浩二, 小林月子, 大関泰宏編著『激動するスロヴァキアと日本—家族・暮らし・人口—』155-166. 二宮書店.
- 3) 前掲2).
- 4) Statistical Yearbook of the Capital of the Slovak Republic Bratislava 2006.
- 5) リージョン: スロヴァキア語ではKraj. スロヴァキアは, 8つのリージョンに区分されている.
- 6) ディストリクトは, リージョンの下位の行政単位であり, スロヴァキアは79のディストリクトからなる. スロヴァキア語でOkres.
- 7) 前掲2).
- 8) ツァーホルスカー・ビストリツァ及びルソヴツェ, リムバハについての調査は, 2007年9月から10月にかけて実施した. 4章の内容はその結果に基づく.
- 9) BratislavaのCensusによる.
- 10) 前掲9)と同様.
- 11) 前掲9)と同様.